

(議長)

次に西海谷議員の発言を許可いたします。

「西海谷議員」

はい、議長。

(議長)

西海谷議員。

「西海谷議員」

私の方から、今議会に対しまして、3本のご質問をさせていただきます。

1点目でございます。1点目でございます。商業振興及び活性化についてでございます。これにつきましては、先ほど萩原議員からも、商店街の活性化についてということでご質問がありました。内容につきましては、私の質問内容を重複する部分が多いので、3点に分けてご質問させて頂いておりますが、1点に絞って質問をさせていただきます。

1点目のまちづくり懇話会について、1点に絞りたいと思います。まちづくり懇話会の議事要点記録読ませていただきました。改めてですね、各産業、そして各分野の課題や問題点が見えてきたと感じております。私はこの度、第6次総合計画に向けてというようなテーマに沿って、この懇話会が開催されましたけれども、やはりこのような各分野、各産業、それぞれ垣根のない話し合い、懇談の場、協議の場、議論の場、そういう場を持つべきだと思っております。そういう意味を込めまして、これらの話し合える場を今後どのように作っていくのか、どのように考えているのか、まずお聞きいたします。

また、この度のまちづくり懇話会、全体を通してのそれぞれの問題点、課題点がありましたけれども、率直に言って、町としてどう感じていたのか、この辺2点に分けてですね、ご質問させて頂きたいと思っております。よろしく願いいたします。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」

西海谷議員からのご質問にお答えいたします。

質問の通告を受けておりますけれども、重複する部分は省略をされて、質問をされておりますので、今ご質問の内容に沿ってお答えをいたします。

議員ご指摘のとおり、商店街を取り巻く状況は消費者のニーズの多様化をはじめ、大型店舗の出店、インターネット等による商品取引の増加、小売業者にとっては大変厳しい状況にあると認識しております。まちづくり懇話会の商業分野で出席された方々のご意見といたしましては、まず特産品に関するご意見がございました。商品開発をする人材の確保、加工のための施設、商品開発の資金面や技術面の支援、ピーアールについてでございます。ニシンの活用につきましては、町民がニシンを知らない。食べ方をはじめ、もっと町民に浸透させるべきであるという一方、商品化するにはニシンは加工が難しい食材であり、技術開発していけるような体制作りが必要ではないかというご意見を頂きました。また、商店街のあり方については、商店街でただ買い物をするための商店街ではなく、活気があり来て楽しい商店街づくりができないか等の意見を頂き、そのためには江差商工会が、等の協力が必要との、江差商工会と町の協力が必要だというご意見を頂きました。いずれにいたしましても町といたしましては、商店街が自らの力で活性化策に取り組んでいけるよう支援するとともに、特に法華寺通り商店街を中心とした上町商店街、並びに愛宕町商店街をメインに、私の任期中に賑わいと魅力のある商店街とするため、商工会や関係機関と連携しながら、空き店舗を活用した起業や、既存商店の事業を、承継を支援してまいりたいと思っておりますので、ご理解願えればと思います。

(議長)

はい、西海谷議員。

「西海谷議員」

はい。1点。これらの意見に対しまして、町長としては、どのように感じたのかな。それぞれの意見に対してどのように感じたのか。今、いろんな意味で支援しながら町は対応していきたいというようなお話でしたんで、その通りでよろしいでしょうか。

(議長)

ん。産業振興課長。

「産業振興課長」

町長にということでしたが、私の方から答弁させていただきたいと思います。

懇談会の中で出たご意見、それと合わせて、商業関係の団体の皆さん、商店街の皆さんとそれぞれですね、意見を交わさせていただきながら色々ご意見を頂きました。その中では、先ほど萩原議員の方にもお答えしたこととダブりますけれども、商店自体の

ですね、経営されている方の高齢化の問題、そしてそれを次いで頂く後継者の問題が一つ大きくクローズアップされたなというふうに感じております。それと合わせて、お店が老朽化してきている。そして、店舗に入っている施設が老朽化してきている。これらの取り換えにかかる費用等に非常に苦慮しているんだと。で、また、商店を継ぐ方がいない中でいつまでこのお店を続けていけるのかがわからない。そういう中で大きなお金を投資してお店を改修するというのは、なかなかできないという悩みを抱えながら今、商店の経営者の方々、多くの方々が経営をされているというような実態が見えてきたわけでございます。これまでも色々な町としての支援は行ってきておりますけれども、これに合わせながらですね、改めて今出されたようなご意見に対しての、悩みに対しての支援をどのようにできるのかというのは、令和2年からの予算にどういった形で反映できるのかということはどうですか、内部で今後検討していかなきゃならない部分がございますけれども、出来るものからですね、出来る限り予算化をしてですね、早期に対応できるようにしていきたいというふうな考え方でおりますので、ご理解頂ければというふうに思います。

(議長)

いいですか。

西海谷議員。

「西海谷議員」

じゃあ2問目に移りたいと思います。

2問目。日本で最も美しい村連合、日本遺産についてでございます。

2015年、日本で最も美しい村連合に加盟してから5年が経過したわけでございます。この日本で最も美しい村、継続のための審査がこれからまた改めて行われると聞いております。そしてまた、2017年、日本遺産についても、認定されてから間もなく3か年を迎えることになりました。交付金をはじめ、今年度一定の節目となるわけでございますが、今後も継続して、この2つの柱を活かしたまちづくりが必要と考えておりますが、一つ目として、助言された課題、これは美しい村に記載されておりましたけれども、これまでの取り組みと評価、それから今後の活用方針についてお伺いいたします。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」

西海谷議員のご質問にお答えいたします。

議員が述べられました通り、日本で最も美しい村連合の加盟は本年度で5年の認定期間が終了しますし、日本遺産は国から交付金を受けることができる認定から3か年が終わることから、一つの区切りを迎えます。私はこの2つについて、江差にとって大切なブランドだと認識しており、今後とも継続して関係人口構築に向けたまちづくりに活かしていく所存でございます。

さて、美しい村の助言課題への取り組み評価についてのお尋ねでございます。5年前の申請時、審査員から江差の資源は高い評価を受けたものの、一方で課題も3つ提示されました。一つは鷗島活用を明確化すること。二つ目はヒバの復活を目指して、町民の森を活用検討すること。三つ目は、いにしえ街道を見せる観光から通年型や滞在型へのツーリズムへの転換が、この3点が挙げられました。これらの取り組みといたしましては、まず鷗島でございますが、ご承知の通り現在、北の江の島構想で鷗島を中心とした賑わいの創出を描いています。町民の森の活用につきましては、今年、函館の企業が実施した山歩き植樹木工体験ツアーが好評に終わりました。今後、地元企画での事業化につなげる手ごたえがございました。いにしえ街道を通年型や滞在型のツーリズムへ転換するという課題につきましては、その一つとして、歴まち商店街協同組合の着物で歴まち散策が挙げられておりますが、今年度は現時点で93名にご利用いただき、この3年間伸び続けております。こういった体験型観光の好材料をしっかりと情報発信しながら、受け入れ体制を構築するため、江差観光みらい機構に中心となって活躍して頂くつもりでございます。

二つ目の事業の評価でございます。まず美しい村加盟に関しては、全国や道内の加盟町村と連携したピーアール、プロモーションを共同で行うことで、それぞれの町の観光地としての知名度を高めています。日本遺産は、今年も含めて約7千万円の交付金でインバウンドをはじめとした、観光客の受け入れ体制整備や、この町が日本遺産の町であることを住民に知って頂く事業等を実施してきました。昨年度事業について少し具体的にお話ししますと、まず江差に来て観光客の皆さんが直接接する観光ガイドや観光施設職員の皆さんのスキルアップを図る目的での先進地研修や新幹線車内や空港などで江差をアピールする観光ピーアール事業等を実施してきました。次年度以降もこれらを基盤にするとともに、人材育成や受け入れ体制を整えながら、観光振興を図ってまいります。

いずれにいたしましても、最も美しい村連合への加盟と日本遺産認定は、国内外の観光客を江差へ呼び込むための大切なツールだと考えています。訪れた方々がもう一度訪れたい、あるいは知人にその良さを伝えたいと思えるような町とするための活動を推進してまいりますので、ご理解願えればと思います。

(議長)

はい、西海谷議員。

「西海谷議員」

了解いたしました。頑張りましょうということで、3問目に移りたいと思います。

3問目でございます。

地域医療の体制維持と強化についてご質問させていただきます。

今年9月に厚生労働省が発表いたしました再編統合が必要な公立、公的病院が、地域医療の在り方が根本的に変える契機となりかねないと、このように私は感じました。江差町を含む第2次医療圏、南檜山圏域においては、地域センター病院である道立江差病院の役割が極めて重要であると考えております。

そこで1点目。道立病院を中心とした南檜山圏域における、地域医療について現在、構成各町や医療機関の間でどのような議論がなされているのか。

2点目。厚労省は、公立公的病院の再編を念頭においた議論を考えているようですが、江差町においては、民間医療機関が第1次医療の大きな部分を担っていると感じております。そこで、地域医療を考える枠組みとして、公的医療機関と民間医療機関がきちんと連携できる体制になっているのかお伺いいたします。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」

西海谷議員からの地域医療に関するご質問でございます。

ご質問の回答の前に、若干地域医療に関するこれまでの国の動き等をご説明させていただきます。国は医療法を改正し、高齢化が進み2025年には段階の世代が75歳以上となる中、医療の在り方は高齢者の特性を踏まえ、住み慣れた地域や自宅での生活を支える地域完結型の医療に重点を移していく必要があります、人口構造の変化に対応し、リハビリテーションや在宅医療の確保等、バランスの取れた医療体制を構築する地域医療構想を都道府県医療計画の中に定めることとしました。これを受けて北海道は、平成28年12月に北海道地域医療構想を北海道医療計画の別冊として策定し、第2次医療圏毎に取り組みについて協議をしているところでございます。

一つ目のご質問の構成各町や医療機関との議論についてでございますが、南檜山区域

地域医療構想につきましては、各町公立及び民間医療機関、檜山医師会、訪問看護ステーションや介護等の関係機関で構成される保健所の南檜山保険医療福祉圏域連携推進会議の地域医療構想専門部会で協議されております。10月31日の部会では、道内圏域全体の平均を上回るスピードでの人口減少が予測されている南檜山圏域においては、各医療機関、自治体病院における機能分化と連携体制の強化を新たに重点課題とし、この課題に向けて協議をより一層強化していくこととなりました。また、今年1月21日と10月7日には、江差町において、檜山南部5町の町長と道立病院局との意見交換会を開催し、地域医療については広域的に検討していく必要があることを共有したところでございます。その後においても、南檜山の公的医療機関や檜山医師会等も含めた協議の場が設置され、今後も引き続き南檜山圏域が目指す地域医療体制構築に向けて、より具体的な方策や体制の整備についてその場において、等において協議を進めていくこととなります。

二つ目の公的医療機関と民間医療機関の連携体制についてのご質問でございますが、現在患者の紹介やイーネット南檜山を活用した投薬等の情報共有を行っておりますし、繰り返しになりますが、保健所の地域医療専門部会では、構成メンバーである公立及び民間医療機関が、南檜山圏域の重点課題である機能分化と連携体制について協議できる場となっております。特に江差町は、議員のお考えのように、地域医療においては民間医療機関の果たしている役割は大きいわけですが、道立江差病院と民間医療機関の機能分担や相互に協力連携できる仕組み作りの構築が重要であると私も考えております。地域住民が安心して暮らしていくうえで、地域医療は重要な要素の一つであります。人口減少が加速していくことが推計されている南檜山地域において、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるために、南檜山地域が今後目指す地域医療体制の協議により一層力を入れていきたいと考えております。

(議長)

はい、西海谷議員。

「西海谷議員」

私もですね、町長がおっしゃる通り、住民が本当に安心して暮らせる、そういう医療体制をどのように構築していくかということが今後大事ななと思っておるわけでございます。

で、更に江差につきましては、民間医療施設もですね、多々あるわけであります。これらを含めてですね、やはり江差町において公立、それから公的医療機関、更に民間医療機関っているのは非常に重要だと思っておるわけであります。そういう中でですね、特に民間の医療機関の中では、色々な問題点、現在も含めて今後も含めてあると思っております。現在、それらの機関についてはですね、どのような課題や問題点を抱えてい

るのか、もしそれらの医療機関の方からご意見があるとするれば、その辺どのようなご意見になっているのかお伺いいたします。

(議長)

はい、健康推進課長。

いい、町長答弁するの。

「町長」

はい。

(議長)

町長。

「町長」

大変重要な地域医療の課題があるというふうに認識しております。議員ご指摘の民間の医療機関でも様々な課題を抱えながら運営をされているというふうに認識しております。特に最近ではですね、脳神経外科クリニックを運営されている法人から、救急車両の更新に対しての支援ができないかというような要請を受けております。大変厳しい経営を強いられていて、実際にそういう協力ができないかということで、江差町を含めた関係町に対する要請を受けているところであります。その要請について、各町どうするか、対応をしっかりと協議してですね、民間の病院を支えるような仕組みをどうやって構築していくべきか、どのような支援をしていくべきかということも具体的に要請を受けていますので、そういう点についても考えていかなければならないですし、そういう民間医療機関が撤退しない、あるいは閉院しないためにもですね、江差町として民間病院を支えるしっかりとした取り組みをすることで、道立病院を中心とした地域医療の役割分担をする中で、地域医療を完結する体制を作っていくことが大事だというふうに思っております。今後も民間医療機関との連携をしっかりとしながらですね、地域住民が医療に対して不安を感じないような、体制作りを全力で取り組んでまいりたいと考えておりますので、ご理解願えればと思います。

(議長)

はい、いいですね。

「西海谷議員」

了解いたしました。

ありがとうございます。

(議長)

これで、以上で西海谷議員の一般質問を終わります。